

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590100372		
法人名	医療法人社団 洛和会		
事業所名	洛和グループホーム瀬田 (2階)		
所在地	〒520-2141 滋賀県大津市大江3丁目6番5号		
自己評価作成日	H29年8月30日	評価結果市町村受理日	平成29年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/25/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiyosyoCd=2590100372-00&PrefCd=25&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成29年10月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域への認知・関わりを持っていくために、地域行事に積極的に参加するようにしています。毎朝近所の散歩に出かけた際、御近所の方からお声を掛けていただいたり受け入れていただけていると感じています。また、昨年度末に町内の方を対象に認知症サポーター講座を開催し認知症の方への理解も深めていただいています。日々の生活では、季節ごとにレクリエーションを計画し、できるだけ外出する機会を持てるよう、季節を感じ楽しみのある企画を計画しています。ADLの高い利用者も多いので、できるだけスーパーへの買い物や散歩・回覧板廻し等GHに閉じこもることなく外へどんどん出て行くことを意識し、ADLの維持・向上を楽しみながら出来るように目指しています。食事でも若い職員が利用者の方に教えて貰い、また無理のない範囲で手伝っていただきながら賑やかに作っています。何が出来るか・どこをサポートするかを探りながら、理念の「し・じ・み」信頼し合い・自分らしく・皆イキイキ楽しい我が家を目指し、入居者・職員ともが楽しく・我が家のように過ごしていけるようにと、日々努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は外出支援に力を入れており、毎日散歩に出かけ、スーパーへの買い物や地域の行事への参加、季節毎の外出以外にも大衆観劇の観賞や瀬田川のクルージングに出かけたり、忘年会や新年会の食事会には家族の参加を得て一緒に楽しむ機会を作っています。職員はチームワーク良く活発に意見や提案を出し合い速やかに話し合っ方向性を打ち出し協力しながら日々の支援に前向きに取り組んでいます。食事は在庫の食材を見ながら利用者の希望や行事食を取り入れながらその日に決め、野菜の下拵えや盛り付け、茶わん拭き、電熱調理器をテーブルの上に置き、汁物を作ってもらえるなどできることに携わってもらい職員と一緒に食卓を共にし、またケーキや豆腐ドーナツ、みたらし団子などのおやつ作りなど、食の楽しさを大切に支援しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	洛和会の理念を朝の申し送り時に唱和し共有している。また、GH独自の理念も玄関やフロアの見えるところに飾り、職員が意識できるようにしている。	法人理念や開設時に作成した「しんらいし合い、自分らしく、みんないきいきと、楽しい我が家」という事業所独自の理念をフロア毎の玄関に掲示し、法人理念についてはカンファレンスで唱和し意識づけを行っています。職員自身が理念を理解し実践に向けて取り組むよう努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(ふれあい祭りや自治会のサロンに参加している。またほぼ毎日散歩に出かけ、近所の方から声を掛けていただいている。	自治会に加入し運営推進会議等で地域の情報を得て清掃活動に職員が参加しています。地域のふれあい祭りや3カ月に1回実施されるサロンには利用者と一緒に参加したり、事業所で開催する法人の洛和フェスティバルには地域の多くの方の参加を得て交流を図っています。踊りや子ども達のキッズダンスのボランティアの訪問もあり、地域との関わりが少しずつ広がっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーター講座を開催したり、洛和会の他サービスと共にメディカルフェスティバスを年1回開催して事業所・認知症のことを知って貰った。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	奇数月に開催し、地域関係者に参加いただき質疑応答や意見交換・イベントなどの情報交換を行い、サービス向上につなげている。	会議は家族や町内会長、地域包括支援センター職員、時には民生委員等の参加を得て隔月に開催しています。職員や利用者の状況、行事、事故、研修等の報告のあと意見交換を行っています。サロンなどの地域情報を得たり、事業所への質問については都度回答をしています。事業所で行うイベント時にテントなどの備品の借用についても会議の場を借りて依頼しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターから運営推進会議に参加していただき、その他でも情報の共有や相談をしている。 行政主催の研修には勤務を調整し参加。	運営推進会議の議事録は地域包括支援センターの職員に届けています。介護保険制度上等でわからないことがあれば法人担当者が直接聞いており、担当者より説明を受けています。行政へは手続きなどで窓口へ直接出向くこともあります。市から案内の届く研修会にはできる限り参加し関わりを持つようになっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人単位で研修を受け、事業所で伝達研修を行っている。防犯・安全の面からドアベルは使用しているが、玄関も夜間の防犯の目的以外で施錠していない。	法人主催の身体拘束に関する研修を受け、参加できない職員は事業所にて伝達研修を受け、自己チェックリストの項目に沿って自身の日々の対応を確認しながら理解を深めています。不適切な言葉かけなど見られた場合は都度注意をしています。玄関やユニットの入口は施錠せず、外に出たい希望があれば職員が付き添って出かけた後、玄関のベンチで外気に触れるなど気分転換を図るようにしています。	

洛和グループホーム瀬田（2階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人単位での研修を受け、事業所で伝達研修を行っている。また、全身のチェック表を活用し、ケガや皮下出血の把握に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人単位での研修を受け、事業所で伝達研修を行っている。成年後見人制度を利用している利用者も居る。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時・改定時に説明を行い、同意を得ている。その場や後日の質問や疑問点も伺い、不明確なところは上長に確認して対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に御意見箱を設置している。また、年1回の家族アンケートも行っており、その結果をご家族様に報告し運営に反映している。	利用者からの要望は日々聞いており、都度対応しています。家族からは年1回のアンケート調査や面会時などに意見や要望を聞くようにしています。外食を増やしてほしいという要望があり、今後利用者の希望を聞きながら個別外出を行う予定をしています。レクリエーションについてなどの得られた意見はサービスに反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	副所長が週1回ペースで回り、意見や相談を受けている。また、毎月会議を開催し意見を聞いたり事前に確認したりして、業務改善を行ったりと反映している。	月1回の会議や日々の業務の中で意見や提案を聞いており、行事等の担当者から意見が挙がることもあります。意見が出しやすい環境にあり職員は活発に話し合いを行っています。得られた意見を基に業務の改善や時間短縮、リスク管理などを行い運営等に反映させています。年2回の面談や職員の様子を見ながら随時の面談も行い、相談や意見を聞く機会としています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を活用し、年に2回の面談を行い、一定の力量があると評価された職員は手当が出ています。勤務状況は、偏りがないように注意している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加出来るように勤務を調整している。		

洛和グループホーム瀬田 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等に参加し、交流の機会を持ち他事業所との関わり・意見交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にアセスメントシートの記入やご家族からの相談・情報から基礎を作り、ご本人が困っていることなど見かけたら出来るだけすばやく対応するよう、職員全体が変化を見逃さないように意識している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や訪問時に出来るだけご本人の情報をいただけるよう声かけを行い、雑談も取り入れ話しやすい意識を持っていただけるよう勤めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様より情報を・訪問した相談からの情報・医療からの情報を基礎にし、日々変化がみられるようなら記録に記入し、そのとき一番必要なことは何かをスタッフが気付けるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることはしてもらう、出来ないことのどの部分を助けるればできるようになるのかを念頭に持ち、関わる。また、さまざまなことを行いながら利用者様から教えて貰ったり助けて貰ったりし、互いに支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員・家族様・医療がチームとなり、利用者様一人一人を支えていけるように、家族様の面会などで話す時間を持ち相談をしたりすることで、皆で支えあって暮らしていけるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会などで来ていただく際はプライバシーの観点からもキーパーソンに連絡確認を取っているが、概ね自由に面会していただいている。また馴染みの病院などには継続して受診している。	知人の面会があり、リビングや居室など選んでもらい椅子やお茶の用意をするなど、ゆっくり過ごしてもらえるよう配慮しています。以前から通院している病院へ行く方や家族と一緒に法事に出かけたり、家族と自宅に戻り草引きを手伝う利用者もあり、諸注意事項を伝えたり、身支度の準備を行うなど外出がスムーズにできるよう支援しています。また自宅周辺をドライブすることもあります。	

洛和グループホーム瀬田（2階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様だけになる環境にならないようにし、関係が悪くなるようであれば職員がフォローに入ったり、気分転換にマンツーマンで散歩や話をする時間を持っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても気軽に立ち寄ってもらえ、困ったときには相談が出来る事業所でありたい。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族の希望意向を伺っている。センター方式C-1-2を活用しミーティングで話し合い思いを尊重できるよう支援している。	入居前に自宅や本人が利用している施設に面談に行き生活歴や好きなこと、趣味、意向等を聞きアセスメントシートに記載しています。わかる範囲で家族にも記載してもらい思いの把握に繋げています。入居後、思いの把握が困難な場合は本人の様子を見ながら気づいたことなど申し送り時に職員間で話し合い共有しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	可能な限り家族様に伺いながら、以前の様子や思いを聞かせて頂くよう、努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態の変化や関わった際の表情・感情など日々の様子を記録に残し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思い、家族の思いを踏まえ、医療職にも意見を求めたうえで月1回カンファレンスを開き計画を見直したりカンファレンスを開いている。	本人や家族の思いを基に介護計画を作成し初回は3ヶ月で見直し、状態が落ち着いていればそのまま継続し6ヶ月で見直しを行っています。その後は1年毎に見直しを行い6ヶ月毎のモニタリングを行っており、状況に変化があれば都度見直しをしています。見直しの際は状態を把握するため再アセスメントを行い、事前に聞いた利用者や家族の意向、主治医や看護師の意見等を加味しカンファレンスを行い介護計画に反映しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランにそって記録しているが、それ以外でも気付いたこと等も記録に残しプラン見直し時に活かしている。		

洛和グループホーム瀬田（2階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、個人の思いを尊重し、一人ひとりに合った支援を提供できるように努めている。御本人・ご家族の希望で訪問マッサージを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩でのこどもたちへの声かけ。地元の小学生ダンスサークルのボランティア受け入れ一緒におやつを食べるなど地域の子供達との交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望により、従来のかかりつけ医（往診・通院）や洛和会の往診医などの御希望に沿うよう支援している。	入居時にかかりつけ医が継続できることを伝え、協力医に変更している方もおり、月2回の往診を受けています。協力医とは訪問看護を通じて24時間連絡可能となっておりますが、緊急時は直接医師の指示を仰ぎ必要に応じて随時の往診もあります。専門医への受診は職員が対応しており、状況に応じて家族が同行することもあります。訪問歯科は希望や必要に応じて月1回の検診と月4回の口腔ケアを受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回訪問看護をうけ、健康管理や相談をしている。24時間連絡体制特変時も指示を仰げ、安心できる環境である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	小まめに病院の相談員と連絡を取り、情報交換に努めている。また、お見舞いこいき、本人の状態を見、看護師にも状態を確認している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要性がみられた早い段階から医師、訪問、家族を交えご本人、家族の思いを伺い医師からも現状を伝え、チームとして支援を行い始めている。	入居時に重度化した場合における対応の指針についての説明や事業所のできることを、できないことを伝えていきます。重度化した場合は主治医や看護師、家族と話し合い、介護計画を変更すると共に方針を共有し支援を行っており、家族の頻回な面会などの協力もあります。看取り支援の心構えについては資料を回覧し全職員に周知しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員、普通救命救急講習を受け、対応出来るようにしている。		

洛和グループホーム瀬田 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と合同で、避難訓練を行っている。その他に、2ヶ月に1回防災についての訓練や勉強会を開き職員への意識向上につなげている。	年6回の避難訓練を実施し内2回は消防署の立ち合いの下、昼夜間の想定で通報、初期消火、避難誘導等の後、水消火器を使用し訓練を行っています。年4回の自主訓練では勉強会やコンセント周りなどの埃の点検などを行っています。運営推進会議で訓練の案内や報告をし、水や缶詰などを備蓄しています。	地域との協力体制を築くためにも避難訓練時には地域の方に案内をし参加を依頼されてはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレの声かけ等耳元で声かけを行い、自尊心に配慮している。馴れ馴れしくならない様、言葉使いには気をつけている。申し送り時は、イニシャルを使用している。	法人主催の接遇マナーについての研修を受講し参加できなかった職員には伝達を行い周知しています。日々の声かけは敬語を基本とし、その時の場の状況や個々に合わせ不快にならないようその場が和むように配慮しています。名前は苗字で呼ぶようにしていますが希望があれば下の名前で呼ぶこともあり、不適切な対応が見られた場合は管理者が注意をしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	洋服を職員と一緒に選んだり、献立を一緒に決めたりしている。また、二者択一で選びやすいようにし自己決定できるよう工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本意でケアを提供できるよう、どのように過ごしたいのか、周りで職員がバタバタせずに様子を見・また希望を聞き対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝整容を鏡の前でゆっくりしていただいたり、衣類の汚れ・乱れも気をつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日にある材料から献立を決め、利用者と共に野菜きり・炒め物等テーブル上で作っている。食器拭きも、皆で分担しながら行っている。	食材は週3回スーパーから配達してもらい、その日の在庫の食材を見ながら、利用者の希望を聞き、行事食も取り入れながらメニューを決めています。足りないものがあれば、利用者と一緒に買い物に出かけたり、野菜などの下拵えや盛り付け、食器拭き、テーブルに置かれた電熱器での汁物作りなどできることに携わってもらい同じ食卓を囲み食事を摂っています。会席料理などの外食や寿司、丼物などの出前、手作りおやつなども楽しみなものとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お部屋でのアクエリアスやお茶の提供など好み。希望にあわせて対応している。時々テーブル上にも急須を置きご自身で好きなときに飲めるようにしている時期もある。食事量が少ない方には栄養補助食の提供やふりかけをかけて対応している。		

洛和グループホーム瀬田（2階）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	希望者は毎週1回、訪問歯科からの口腔ケアを受けている。その他毎日毎食後に口腔ケアを行っており、出来ないところはお手伝いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1名リハビリパンツから布パンツに変わられた方が居られる。声かけや、排泄パターンの確認を行っている。	排泄支援については失敗が少なくなるよう必要な利用者のみ排泄チェック表をつけ、排泄リズムを掴み様子やサインなどを見逃さないよう個々に合わせて声かけやトイレへの誘導を行っており、紙パンツから布の下着に変更した方もいます。排泄用品や支援方法については、平日の申し送り時に話し合い、自立に向かうよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲み物にはオリゴ糖を使用したり、ヤクルトを飲んだりしている。毎日体操も行い下腹部の運動も意識している。お腹が張って苦しいときなどはお腹を温めてマッサージをしたり個別に対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2・3日に一回入浴しているが、希望があり対応出来る時は入っていただいている（夜間も含む）。お湯の量も本人の希望の湯量で入っていただいている。	入浴は午後から週に2～3回入れるよう支援し、希望があれば午前や夜間の入浴も職員体制によっては可能となっています。湯の量や温度も個々に合わせ、柚子や菖蒲などの季節湯や入浴剤なども使用し入浴を楽しんでもらっています。入浴を嫌う方は日時を変更したり、声かけの工夫をし無理のないよう支援しており、希望があれば同性介助を行っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	概ね安眠されているが、眠れないときなどはホットミルクを提供したり、室温調整を行う。質のよい睡眠に向け、日中も活動的に動ける支援を意識している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1日分の薬準備時に、薬説明書と照らし合わせ確認している。また、薬剤師・医療関係者にも聞き易い関係性が築けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いにやりがいをもたれていたり、これは自分の仕事と役割を持っておられる方も居る。一人ひとりの楽しみ・やりがいを意識し支援していく。体調に合わせて全員が何かしら楽しみ・張り合いが持てるように支援している。		

洛和グループホーム瀬田 (2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物への一緒に出かけたりしている。個人の希望まではなかなか対応できていないが、外食の希望等は個別で対応出来るように努めている。	日々の散歩や食材などの買い物、地域の行事の他、初詣、桜の花見、紅葉狩りなど季節毎の外出も行っていきます。新年会や忘年会の食事会、大衆演劇観賞、瀬田川クルーズなど多くの外出の機会を設け楽しんでもらっています。家族と旅行や外食に出かける利用者もいます。自宅に帰ったり、喫茶店など個別に出かける方もいますが、来年度からは全体の個別外出も実施していく予定です。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理はホームにて行っているが、御家族様確認の元、ご自身で持っておられる方も居る。自身の財布から買い物に出かけた際払われることもある		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	郵便が届いた時は、確認後代読したりお渡ししたりしている。また、ご家族にも報告を行う。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南向きのベランダの為、まぶしくないよう注意しているが開放感がある。また、エアコンの風が直接当たらないように風除けを使用している。季節の花も、できるだけフロア内に飾るよう意識している。室内の飾りも利用者と共に作り季節感のある飾りを飾っている。	ベランダに季節の花や野菜を植え、リビングには利用者に生けてもらった生花と一緒に作ったコスモスやブドウ、月見などの作品を飾り季節を感じてもらっています。日々掃除や換気を行い温湿度計を確認し、利用者の体感も考慮しながら調整したり、利用者の状況を把握しテーブルや座席の変更をするなど快適に過ごせるような共用空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	TV前のソファでゆっくり寛がれたり、自席で中の良い方とお話しされたりと、思い思いに過ごせるようにしている。廊下にもソファをひとりになれる場所も作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持ち込まれたり、家族写真を飾られたりと御本人が落ち着く環境作りを行っている。	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうよう伝え、筆筒やテーブル、椅子、冷蔵庫、時計などを持ち込まれ、家族と相談しながら配置しています。位牌や、家族の写真、縫いぐるみ等大切な物を傍に置いたり、水彩画や短歌など自身の作品を飾りその人らしく過ごせるよう配慮し、掃除や換気も日々行い快適な暮らしができるような居室作りに努めています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー設計であり、入居者目線にカレンダーや時計がすぐに見れるように設置したりしている。本や新聞が自由に手に取れるところにおいている。必要に応じて夜間でも安全に移動できるように足元灯を使用している。		